

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 11/14 初現~11/20 極大で第9ステージが示す時期→12/2で正しかった可能性
→12/2極大が出現・12/2極大で第10ステージ突入の可能性 第10ステージが示す時期=12/11±の可能性

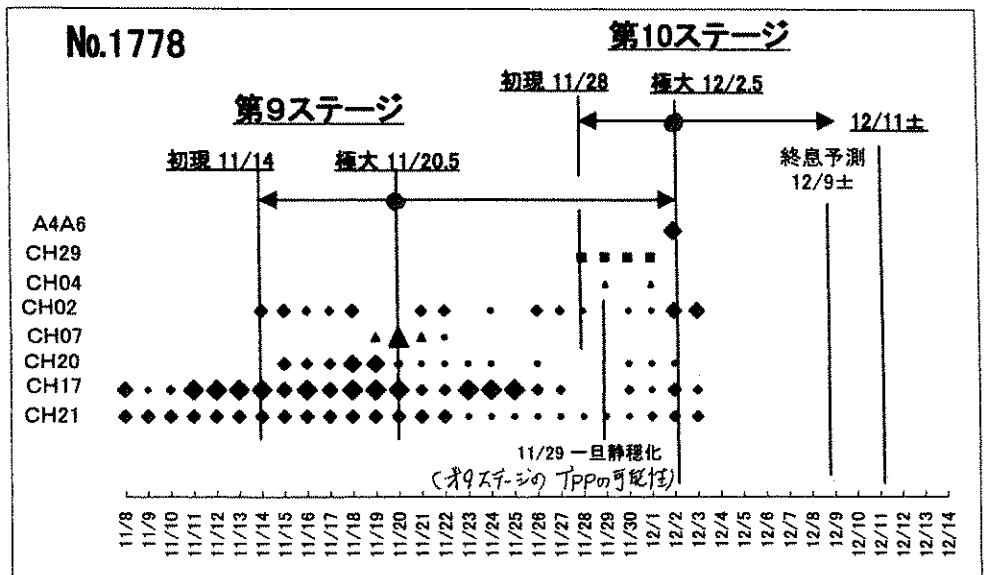
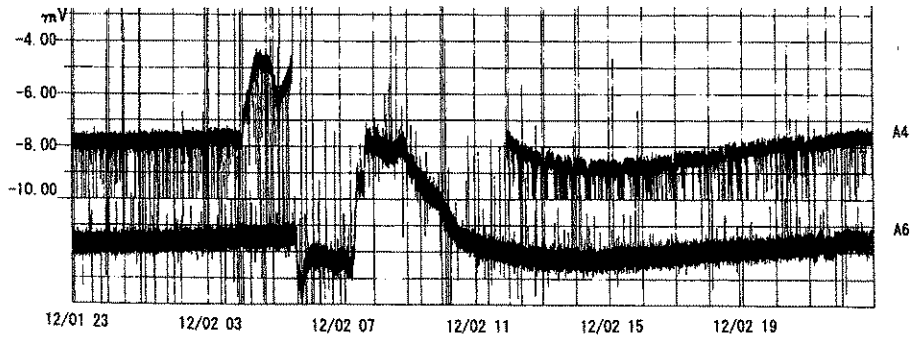
No.1778 (2008年07月より7年5ヶ月継続する観測歴上最長継続の特殊前兆群=地殻大型地震の可能性前兆)の現況報告続報です。

第8ステージが示した2015.11/20に極大が出現し、第9ステージに移行しました。第9ステージの解析から、11月14日のCH02特異状態の継続出現開始を初現とした11/14初現~11/20.5極大の関係をT_{fap}:T_{map}=20:13 経験則を使用し、12月02.6日±が計算されました。この見解は11月29日配信の実験観測情報でも報告させて戴きました。

11月29日に数時間、7年間継続してきた前兆が全て終息した時間帯が出現致しましたが、再び前兆が再出現したため、次の可能性として11月10日を初現とする可能性を考え、12/4±終息、12/9±の可能性も考え報告致しました。

しかし、右上波形のとおり、秋田観測点のA4とA6が、12月02日の昼前を中心に特異状態が出現観測されました。A4は第8ステージでも極大が出現しています。A4, A6の同期特異はピーク認識されます。

このことから、先の見解「11/14 初現~11/20.5 極大⇒12/2.6を示す」が正しかった様で、第8ステージが示した時期は12月02日であった可能性が強く示唆されます。その12月02日昼前に極大が出現したことから、第10ステージに移行した可能性が認識されます。第10ステージに関しては、11月28日から出現したCH29のDBT, CH04の直接波近似変動等があり、11月28日が初現である可能性が考えられます。



11/28 初現~12/02.5 極大で計算しますと、12月11日± (正確には12/10.9±) が示されます。この第9ステージが示す可能性のある12月11日±が地震発生時期である場合は、12月09日±に前兆静穏化が見込まれます。これを確認することが重要です。

※前兆終息確認して続報予定

【その他】

当該長期前兆No.1778以外、大きな被害が予想される巨大地震が推定される前兆は観測されておりません。関東直下、東海・東南海等の巨大地震も推定されません。

◆推定領域: 右図 太線領域内=大枠推定領域 斜線領域=可能性が考え易い推定領域

◆推定規模: M7.8 ± 0.5

◆推定時期: 実際の前兆終息を観測したのち推定予定
※12月09日に前兆終息が観測された場合=12月11日±
(前兆終息が観測された場合は続報で報告予定)

◇推定地震種: 震源が浅い日本列島の地殻地震
◇推定発生時刻: 午前9時±1 (又は午後6時±3)

